

ろんその両方ではあるが、) どちらにより軸足を置くのかの問題であり、今後、このような発表会を継続して開催する際には、検討が必要だと思われた。

3. 情報発信について

研究補助金で得られた成果については、広く国民に還元するべきという政府の方針（『科学技術基本政策策定の基本方針（概要）』総合科学技術会議（第91回）平成22年7月16日）を踏まえ、今回の形式での厚生労働科学研究の成果が公表されたところである。しかしながら、報告内容は一般国民向けということを考慮した場合、どの程度まで参加者が理解できたかという点については疑問が残る。

インターネット配信によるオンデマンドでの質疑応答についても自身が座長を担当した課題に対する質問はなかった。一方で、演題として取り上げられたパピロームウイルスワクチンに関する研究報告については、トランスレーショナルリサーチの一つとして研究補助金による医薬品開発を進める上での問題点が指摘されることとなった。すなわち、研究補助金による研究である以上、研究で得られた成果を公表することが研究者に求められることとなる。しかしながら、製薬メーカーとの共同で研究が進められている場合、特許との兼ね合いもあることから研究の内容を公表することが困難なケースも少なからず存在する。このような状況を考慮した場合、補助金での医薬品開発研究は新たな枠組みで実施していくことが求められる。また、患者会の代表が、科学技術振興機構の運営するポータルサイト Science Portal の中で、今回の試みについて、「・・・公開されているとはい

いながら、参加者はほとんどが関係者であったことである。せっかく患者団体として初めての機会をいただきながら、閉鎖的な社会を感じ残念だった。」と述べておられるとおり、研究者の目線ではなく、医療サービスを受ける側の視点を踏まえた情報の開示を希望されており、研究成果の公表の在り方について、研究成果をありのまま伝えるでは社会に与えるインパクトは少ないものと思われる。これらの研究報告と同じ内容が、テレビ等のメディアで紹介される場合は、作る側が、視聴者と同じ視点にたって番組を制作することから、難解な内容であっても映像化することで、理解しやすい内容となっている。必ずしも、このような手法が、科学的に正しいとは限らないが、見せる努力も必要と思われる。今後の情報の発信のあり方として、放送メディアの活用も考慮される。以上、今回の試験的な研究成果に関する情報発信の試みを踏まえ、研究成果の公表のあり方に反映する。

情報発信のあり方については、目的、対象を明確にすることが原則であり、今回の反省すべき点としては、この2点に集約されると考えられた。

E. まとめ

従来のレギュラー発表形式は、特定のテーマについて公表するのに適しているが、厚生労働科学研究全般を広く国民一般に広めるには限界がある。その欠点を補完する方法としてインターネットによる配信は有効である。ただし、著作権や個人情報の保護などいくつかの課題が明らかになった。

今回のような成果発表の試みを今後も

繰り返していくことによって、運営側及び発表者側の両者が、研究成果を国民や社会へ還元するという意識は強まっていくものと思われる。

F. 健康危険情報

なし。

G. 研究発表

各分担研究報告に記載。

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし。

厚生労働科学研究費補助金（特別研究事業）
分担研究報告書

パネルディスカッション

研究代表者 辻村信正 国立保健医療科学院次長
研究分担者 緒方裕光 国立保健医療科学院研究情報センター長

研究要旨

厚生労働科学研究の成果発表会として国立保健医療科学院において実施したシンポジウムにおいて、厚生労働科学研究成果発表のあり方について、厚生労働科学研究班の研究代表者およびその他関係者を交えてパネルディスカッションを行った。本パネルディスカッションを通じて、今後の厚生労働科学研究の成果発表を一般国民に向けて効果的かつ効率的に行っていく際の課題について議論を行った。その結果、研究者、一般国民の両者の立場からそれぞれの課題が挙げられただけでなく、両者を繋ぐ役割の必要性などが議論された。

A. 目的

厚生労働科学研究の成果の社会への還元に向けて、効果的な成果発表の方法を検討するためには、様々な発表形式の評価を行っていく必要がある。厚生労働科学研究の成果発表会として国立保健医療科学院において実施したシンポジウム（平成23年10月23日）では、厚生労働科学研究成果発表のあり方について、厚生労働科学研究班の研究代表者およびその他関係者を交えてパネルディスカッションを行った。本パネルディスカッションを通じて今後の厚生労働科学研究の成果発表を効果的かつ効率的に行っていく際の課題について検討を行った。

B. 方法

パネルディスカッションのタイトルは「目的志向型研究としての厚生科学研究

と成果発表のあり方」（1時間15分）であり、パネリストは以下の6名である。辻村信正氏（国立保健医療科学院次長，座長），尾崎福栄氏（厚生労働省大臣官房厚生科学課研究企画官），中川隆之氏（京都大学大学院医学研究科耳鼻咽喉科・頭頸部外科講師），野田光彦氏（国立国際医療研究センター糖尿病・代謝症候群診療部部長），内田麻理香氏（東京大学情報学環・学際情報学府科学技術コミュニケーションーター），伊藤建雄氏（日本難病疾病団体協議会代表）。本パネルディスカッションを通じて、それぞれ研究代表者，行政担当者，有識者，市民などの立場から今後の厚生労働科学研究の成果発表のあり方について，議論を行った。

C. 結果

パネルディスカッションでは，様々な

立場から厚生労働科学研究成果発表のあり方について意見が出された。以下では、パネルディスカッションで出された議論をいくつかの観点から整理した。

1) 成果発表の時期について

研究課題に関して途中経過として中間発表するのか、最終的な成果として発表するのかによって発表内容が異なる。研究者としては、論文を公表することによって最終的な研究成果とするので、論文にする前に成果を公表することは難しい。また、研究成果に関して特許出願などの予定が関係する場合には、その出願前にすべての研究内容を公表することはできないため、発表時期はさらに難しい問題となる。

研究結果が出る前の段階でも途中経過を公表することによって社会への責任を果たすことになる。しかし、最終的に研究論文として発表されることによって確実に社会や世界中の医学に貢献することができる。

2) 一般市民の参加について

漠然と研究成果を公表するのではなく、研究者側が「成果をぜひ見てほしい」という意識を持つことが重要である。また、患者団体や患者さん、あるいは一般市民からの声を研究内容にフィードバックさせることも必要である。

3) 広報について

今回のシンポジウムについては、広報が十分だったとは言えない。ただし、インターネット上のツイッターなどを通じて情報は拡散していった可能性はある。シンポジウムの成果をアーカイブ化することによって、今後は情報が広がっていくことが期待される。

4) 研究成果を分かりやすく伝えることに

ついて

研究内容を正確に伝えることと分かりやすく伝えることは、一般に互いに相反することである。したがって、研究者側が自分の研究を分かりやすく伝えるためには、自ら何らかの工夫が必要となる。その点では、研究者側が一方的に情報発信をするのではなく、双方向のコミュニケーションに努める必要がある。その際に、科学コミュニケーターの果たす役割が期待される。

5) 研究成果を公表する際の研究者の負担について

研究事業の中心はあくまでも研究そのものなので、研究成果の広報のための特別な費用は研究事業費には含まれない。したがって、成果を公表する方法は、各研究者の努力に依存している。公開方法を工夫して研究成果の公表に務めることは、研究者にとっては負担ではあるものの、研究成果のアピールという点では重要である。

D. 考察

一般に研究者は、専門分野の特定のテーマについて研究を行い、学会発表や学術論文などを通じてその研究成果を公表している。それらの内容の多くは同じ専門分野の学会参加者や学会に属している研究者を対象としており、一般国民にとっては必ずしも理解しやすいものではない。したがって、一般国民へ広く研究情報を公開するということは、研究者にとっては、専門的な内容をどのように分かりやすく表現するかという課題を伴う。専門家間の成果発表や情報交換は、特別な機会を設けなくとも学会や研究会を通じて通常研究者間で行っていることであ

る。それとは別に、一般国民向けの成果発表の機会を多くすることが上記課題に対する解決策の1つと考える。その機会は、市民向けの成果発表会を開くだけでなく、インターネットを通じて公開する方法があればより広がることになる。また、このような機会を増やすことは、単に研究者側から成果を公開するだけでなく、一般国民の反応やニーズを把握することにもつながる。すなわち、研究者と社会のコミュニケーションの場を増やすことが重要であろう。これらの機会を企画する、あるいは、研究者の使う専門的言葉を一般国民に向けてわかりやすく表現する際には、コーディネータ機能を持つ人（または組織）の関与が重要になってくると思われる。

厚生科学研究には、1500もの課題があり、生活に密着した様々なテーマを扱っている。そういう意味でも、厚生労働科学研究が発展していくために、国民・市民の強いサポートが必要である。その一端として、今回の試み（シンポジウム）が活かされることを期待している。

E. まとめ

厚生労働科学研究成果発表のあり方について、厚生労働科学研究班の研究代表者およびその他関係者間でパネルディスカッションを行った。本パネルディスカッションを通じて、今後の厚生労働科学研究の効率的成果発表を一般国民に向けて効果的かつ効率的に行っていく際の課題について検討を行った。その結果、研究者、一般国民の両者の立場からそれぞれの課題が挙げられただけでなく、両者を繋ぐ役割の必要性などが指摘された。

F. 健康危険情報

なし。

G. 研究発表

各分担研究報告に記載。

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし。

III. 参 考



厚生労働科学研究 成果発表シンポジウム

わかりやすいネット時代の研究成果発表実験

日付：10月23日(土)
時間：午前9:30 開場、午前9:55 開始
会場：国立保健医療科学院 交流対応大会議室
〒351-0197 埼玉県和光市南2丁目3-6

主催：厚生労働科学研究費補助金の成果の公表のあり方に関する研究事業
参加費：無料 ※事前受付不要、当日受付にて

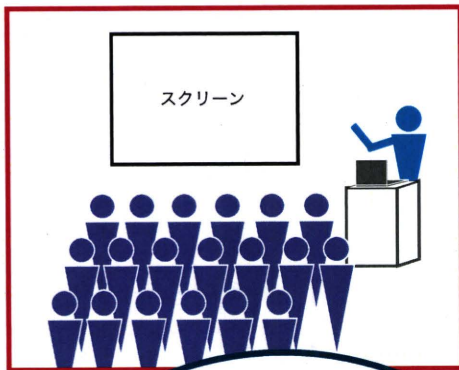
厚生労働科学研究成果発表シンポジウム

今回の試みについて

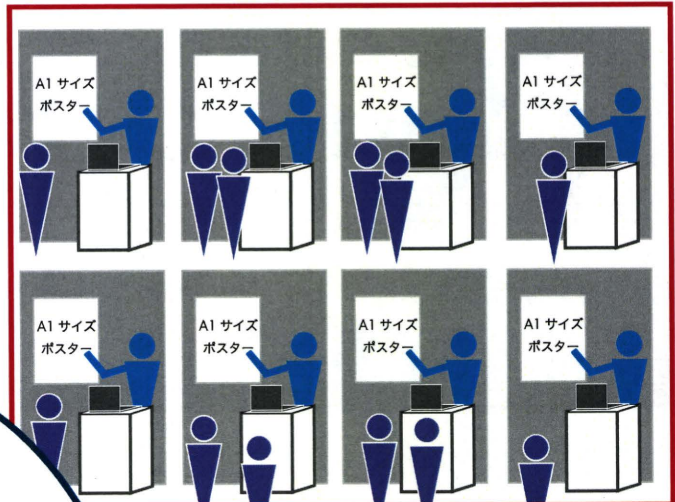
シンポジウムの模様をインターネットでライブ配信を行ないました。

仕事や日常生活において、インターネットは既に欠かせないものとなりました。携帯電話だけでなく、ゲーム機器や車までもがインターネットに繋がる時代です。多くの方が、新聞や雑誌に加えて、インターネットを利用して情報を集めるようになりました。今後、厚生労働科学研究費の研究成果も、できる限りインターネットを有効利用して、成果の公表と社会への還元を行なっていく必要があります。今回のシンポジウムは、そのための試みとして、インターネット上でライブ配信しました。また、会場だけでなくネットからも質問を受け付けることで、インターネットの双方向性を生かした研究成果発表のあり方を提案しました。

シンポジウム会場



ポスター発表会場 (8 スポット)



当日来場しなくても当日の模様を視聴出来る!

厚生労働科学研究成果発表シンポジウム

開催概要

名称：厚生労働科学研究成果発表シンポジウム

テーマ：わかりやすいネット時代の研究成果発表実験

日付：10月23日（土）

時間：午前 9:30 開場、午前 9:55 開始

会場：国立保健医療科学院 交流対応大会議室

〒351-0197 埼玉県和光市南2丁目3-6

主催：厚生労働科学研究費補助金の成果の公表のあり方に関する研究事業

参加費：無料 ※事前受付不要、当日受付にて

運営：国立保健医療科学院 総務課 厚労科研シンポジウム担当

TEL:048-458-6111（代表） FAX:048-469-1573

会場アクセス



東武東上線・東京メトロ（有楽町線・副都心線）「和光市」駅 下車（徒歩約25分）

【バス利用の方】和光市駅南口より

- ・東武バス〔和01〕を利用し（約15分）、「税務大学校」下車（徒歩3分）、
又は〔和06〕〔和08〕を利用し（約15分）「税務大学校正門」下車（徒歩2分）
- ・西武バス〔泉39〕を利用し（約15分）、「税務大学校和光校舎」下車（徒歩3分）

厚生労働科学研究成果発表シンポジウム

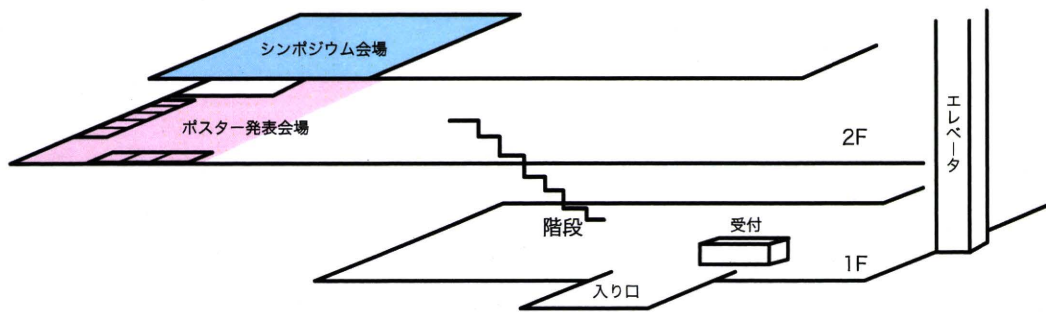
当日進行プログラム

時間	タイトル	発表者	※番組構成
9:30	開場		
9:55	開催ご挨拶		
10:00~	レギュラー発表：Ⅰ. 行政政策 「喘息児における新型コロナウイルスの緊急調査と対応」	岐阜大学大学院医学系研究科 小児病態学 教授 近藤 直実	0-1
10:30~	レギュラー発表：Ⅱ. 厚生科学基盤 「医学研究における実験動物」	独立行政法人医薬基盤研究所 豊長類医科学研究センター センター長 保富 康宏	
11:00~	各ショートプレゼンテーション~ポスター発表 下記8項目		0-2
12:00~12:30	8演題同時進行 1：次世代育成支援政策における産後育児支援体制の評価に関する研究 2：生まれる前の胎児を子宮内で治す新しい手術システム 3：筋ジストロフィーに対するエクソン・スキップ治療 4：ライフステージに応じた広汎性発達障害者に対する支援 5：薬剤耐性HIVの発生機序とその制御方法に関する研究 6：細胞内輸送機能の低下とアルツハイマー病との関係 7：大型建設機械の不安定性と転倒防止のための安全要件 8：経鼻インフルエンザワクチンの臨床応用をめざして	国立保健医療科学院 公衆衛生看護部 ケアシステム開発室長 国立成育医療研究センター 臨床研究開発部 部長 独立行政法人 国立精神・神経医療研究センター 神経研究所 遺伝子疾患治療研究部 部長 独立行政法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 児童・思春期精神保健研究部 部長 国立感染症研究所 病原体ゲノム解析研究センター第二室 室長 独立行政法人 医薬基盤研究所 豊長類医科学研究センター 研究員 独立行政法人 労働安全衛生総合研究所 建設安全研究グループ 上席研究員 国立感染症研究所 インフルエンザウイルス研究センター 第6室長	福島 富士子 千葉 敏雄 武田 伸一 神尾 隆子 佐藤 裕隆 木村 展之 玉手 聡 長谷川 秀樹
12:30~14:00	休憩 ※院内にお食事をご提供している施設等はありません。ご注意ください。		
14:00~	レギュラー発表：Ⅲ. 疾病・障害対策 「子宮頸がん予防のための次世代HPVワクチンの開発」	理化学研究所 新興・再興感染症研究ネットワーク推進センター 業務展開チーム チームリーダー 神田 忠仁	
14:30~	レギュラー発表：Ⅳ. 健康安全確保総合 「皮膚・排泄ケア認定看護師による高度創傷管理技術を用いた重症褥瘡発生の防止に関する研究」	東京大学大学院 医学系研究科 健康科学・看護学専攻 老年看護学/創傷看護学分野 教授 真田 弘美	0-1
15:00~	各ショートプレゼンテーション~ポスター発表 下記8項目		3
16:00~16:30	8演題同時進行 1：国民を代表する集団の追跡調査の成果と予防対策への応用:NIPPON DATA80/90 2：Duchenne型筋ジストロフィーのエクソンスキップ治療 3：小児患者に対する医薬品の適正使用に関する研究 4：糖尿病患者に対する生活習慣療法を中心とした治療の効果 5：新しい聴覚器機：人工聴覚上皮の開発 6：クリオピリン関連周期熱症候群に対する診療基盤形成 7：関節リウマチの寛解導入療法体系化に関する研究 8：飲料水の水質リスク管理に関する統合的研究	慶應義塾大学 医学部衛生・公衆衛生 教授 神戸大学大学院医学研究科 内科系講座小児科学分野 こども急性疾患学部門 特命教授 滋賀医科大学医学部附属病院 治療管理センター 治療管理センター長 筑波大学大学院 人間総合科学研究科 疾患制御医学専攻 代謝内分泌制御医学分野 教授 京都大学大学院医学研究科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 講師 京都大学 IPS細胞研究所 臨床応用研究部門疾患再現研究分野 特定拠点助教 慶應義塾大学 医学部 内科学教室 リウマチ内科 教授 北海道大学 大学院工学研究科 環境創生工学部門 水代謝システム分野 教授	岡村智敬 竹島 泰弘 中川 雅生 曾根 博仁 中川 隆之 斎藤 潤 竹内 勤 松井 佳彦
15:30~15:45	休憩		
16:45~	レギュラー発表：Ⅴ. 戦略研究 「糖尿病予防のための戦略研究—その計画・経過・結果—」	国立国際医療研究センター 糖尿病・代謝症候群診療部 部長 野田 光彦	0-1
17:15~	パネルディスカッション 「目的志向型研究としての厚生科学研究と成果発表のあり方」 イントロ: パネラー:	国立保健医療科学院 次長 厚生労働省 大臣官房 厚生科学課 研究企画官 京都大学大学院医学研究科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 講師 国立国際医療研究センター 糖尿病・代謝症候群診療部 部長 東京大学 情報学環・学際情報学府 科学技術コミュニケーションター 日本難病疾病団体協議会 代表	辻村 信正 (座長) 尾崎 福栄 中川 隆之 野田 光彦 内田 麻理香 伊藤 建雄
18:30	終了予定		

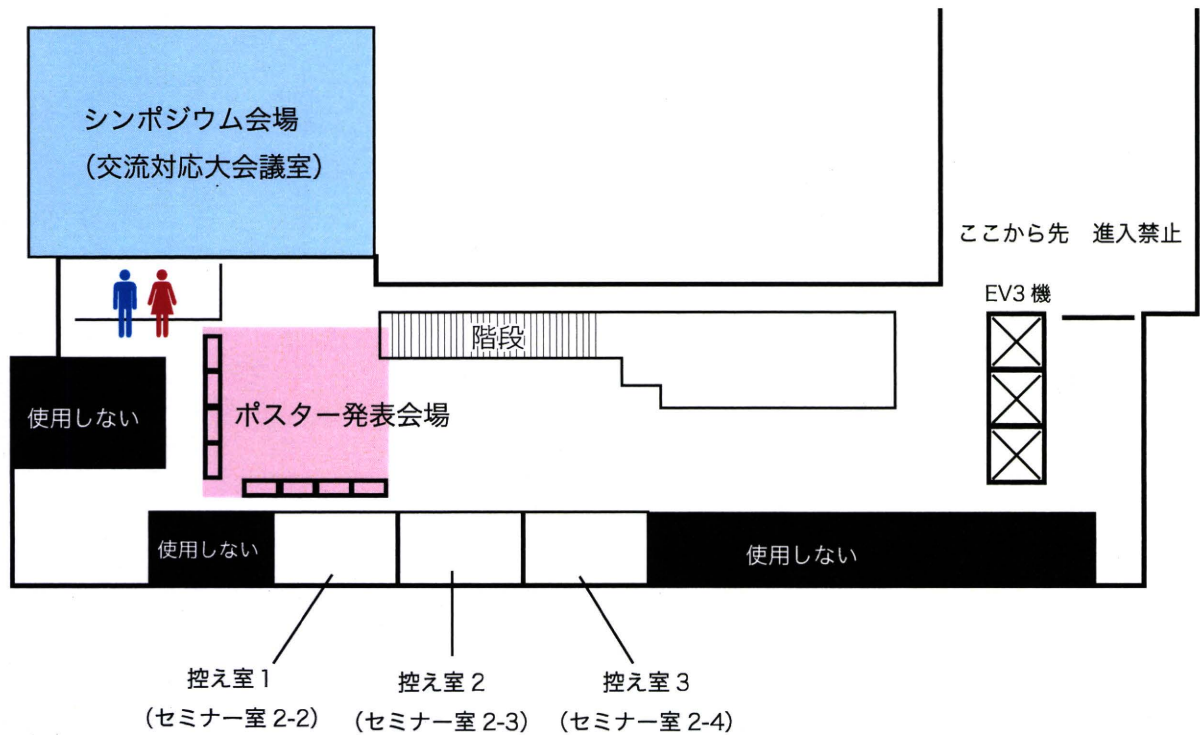
アカウント No - 番組 No

厚生労働科学研究成果発表シンポジウム

フロアガイド



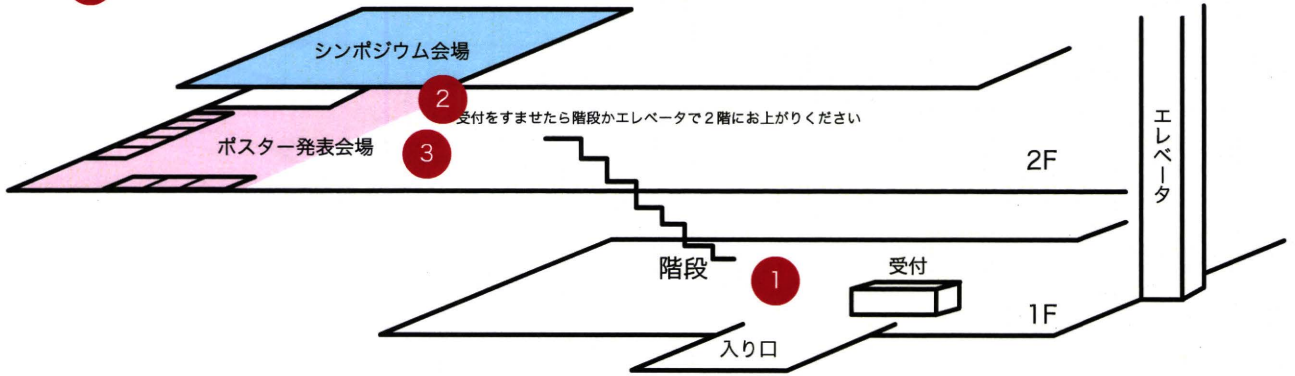
2F 詳細



厚生労働科学研究成果発表シンポジウム

サイン計画

● 3ヶ所



1



2



3



厚生労働科学研究成果発表シンポジウム

控え室 名簿 及び 講師一覧

NO	分類CODE	所属	お名前
1:	R1	岐阜大学大学院医学系研究科	小児病態学 教授 近藤 直実
2:	R2	独立行政法人医薬基盤研究所	霊長類医科学研究センター センター長 保富 康宏
3:	SP1	国立保健医療科学院	公衆衛生看護部 ケアシステム開発室長 福島 富士子
4:	SP2	国立成育医療研究センター	臨床研究開発部 部長 千葉 敏雄
5:	SP3	独立行政法人	国立精神・神経医療研究センター神経研究所 遺伝子疾患治療研究部 武田 伸一
6:	SP4	独立行政法人	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 児童・思春期精神保健研究部 部長 神尾 陽子
7:	SP5	国立感染症研究所	病原体ゲノム解析研究センター第二室 室長 佐藤 裕徳
8:	SP6	独立行政法人	医薬基盤研究所 霊長類医科学研究センター 研究員 木村 展之
9:	SP7	独立行政法人	労働安全衛生総合研究所 建設安全研究グループ 上席研究員 玉手 聡
10:	SP8	国立感染症研究所	インフルエンザウイルス研究センター 第6室長 長谷川 秀樹
11:	R3	理化学研究所	新興・再興感染症研究ネットワーク推進センター 業務展開チーム チームリーダー 神田 忠仁
12:	R4	東京大学大学院	医学系研究科 健康科学・看護学専攻 老年看護学/創傷看護学分野 教授 真田 弘美
13:	SP9	慶應義塾大学	医学部衛生・公衆衛生 教授 岡村 智教
14:	SP10	神戸大学大学院医学研究科	内科系講座小児科学分野こども急性疾患学部門 特命教授 竹島 泰弘
15:	SP11	滋賀医科大学医学部	附属病院 治験管理センター 治験管理センター長 中川 雅生
16:	SP12	筑波大学大学院	人間総合科学研究科 疾患制御医学専攻 代謝内分泌制御医学分野 曾根 博仁
17:	SP13	京都大学大学院医学研究科	耳鼻咽喉科・頭頸部外科 講師 中川 隆之
18:	SP14	京都大学 iPS 細胞研究所	臨床応用研究部門疾患再現研究分野 特定拠点助教 斎藤 潤
19:	SP15	慶應義塾大学	医学部 内科学教室 リウマチ内科 教授 竹内 勤
20:	SP16	北海道大学	大学院工学研究院 環境創生工学部門 水代謝システム分野 教授 松井 佳彦
21:	R5	国立国際医療研究センター	糖尿病・代謝症候群診療部 部長 野田 光彦
22:	PD1	国立保健医療科学院	次長 辻村 信正 (座長)
23:	PD2	厚生労働省	大臣官房 厚生科学課 研究企画官 尾崎 福栄
24:	PD3	京都大学大学院医学研究科	耳鼻咽喉科・頭頸部外科 講師 中川 隆之
25:	PD4	国立国際医療研究センター	糖尿病・代謝症候群診療部 部長 野田 光彦
26:	PD5	東京大学	情報学環・学際情報学府 科学技術コミュニケーター 内田 麻理香
27:	PD6	日本難病疾病団体協議会	代表 伊藤 建雄

厚生労働科学研究成果発表シンポジウム

1階 控室（講師控室） レギュラー発表者

氏名	ふりがな	所 属	分類コード
近藤直実	こんどう なおみ	岐阜大学大学院医学系研究科小児病態学教授	R 1
保富康宏	やすとみ やすひろ	(独)医薬基盤研究所霊長類医科学研究センター長	R 2
神田忠仁	かんだ ただひと	(独)理化学研究所新興・再興感染症研究ネットワーク推進センター業務展開チームリーダー	R 3
真田弘美	さなだ ひろみ	東京大学大学院医学系研究科教授	R 4
野田光彦	のだ みつひこ	(独)国立国際医療研究センター糖尿病・代謝症候群診療部長	R 5

2階 控室（2-2セミナー室） ショートプレゼンテーション・ポスター発表者

氏名	ふりがな	所 属	分類コード
< 午 前 の 部 >			
福島富士子	ふくしま ふじこ	国立保健医療科学院公衆衛生看護部ケアシステム開発室長	SP 1
千葉敏雄	ちば としお	(独)国立成育医療研究センター臨床研究センター副センター長	SP 2
武田伸一	たけだ しんいち	(独)国立精神・神経医療研究センタートランスレーショナル・メディカルセンター長	SP 3
神尾陽子	かみお ようこ	(独)国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所児童・思春期精神保健研究部長	SP 4
佐藤裕徳	さとう ひろのり	国立感染症研究所病原体ゲノム解析研究センター第二室長	SP 5
木村展之	きむら のぶゆき	(独)医薬基盤研究所霊長類医科学研究センター	SP 6
玉手聡	たまて さとし	(独)労働安全衛生総合研究所上席研究員	SP 7
長谷川秀樹	はせがわひでき	国立感染症研究所室長	SP 8
< 午 後 の 部 >			
岡村智教	おかむら とものり	慶應義塾大学医学部衛生・公衆衛生教授	SP 9
竹島泰弘	たけしま やすひろ	神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野	SP 10
中川雅生	なかがわ まさお	滋賀医科大学医学部附属病院治験管理センター長	SP 11
曾根博仁	そね ひろひと	筑波大学大学院内科・教授	SP 12
中川隆之	なかがわ たかゆき	京都大学大学院医学研究科耳鼻咽喉科・頭頸部外科	SP 13
齋藤潤	さいとう めぐむ	京都大学IPS細胞研究所特定拠点助教	SP 14
竹内勤	たけうち つとむ	慶應義塾大学医学部リウマチ内科・教授	SP 15
松井佳彦	まつい よしひこ	北海道大学大学院工学研究院教授	SP 16

2階 控室（2-3セミナー室） パネルディスカッション

厚生労働省厚生科学課

氏名	ふりがな	所 属	分類コード
辻村信正	つじむら のぶまさ	国立保健医療科学院次長	PD 1
尾崎福栄	おざき よししげ	厚生労働省大臣官房厚生科学課研究企画官	PD 2
中川隆之	なかがわ たかゆき	京都大学大学院医学研究科耳鼻咽喉科・頭頸部外科	PD 3
野田光彦	のだ みつひこ	(独)国立国際医療研究センター糖尿病・代謝症候群診療部長	PD 4
内田麻理香	うちだ まりか	サイエンスコミュニケーター・サイエンスライター	PD 5
伊藤たてお	いとう たてお	日本難病・疾病団体協議会代表	PD 6

2階 控室（2-4セミナー室） パワープレイ

厚生労働科学研究成果発表シンポジウム

受付

スタッフ

- 吉田 正和
- 萩原 毅

・受付方法

一般受付

受付にてパスと開場内の注意事項を配布 ※来場者をカウント。

一般来場者のお帰りの際、バッジの回収。途中退室者には再入場の際、バッジの提示のお願いと、お帰りの際は、バッジを必ず返却するようにアナウンスを行なった。

発表者受付

控え室をご案内、名札をお渡しし、胸部に着用頂くようお願いした。

※ご案内後、本シンポジウムはインターネット上でライブ配信／録画、後日視聴が可能なことをお伝えし、録画動画の著作権に関する覚書をご一読頂き、サインを頂いた。

※覚書ドキュメントは国立保健医療科学院準備

受付運営担当：国立保健医療科学院 総務部総務課庶務係 吉田 正和

講師誘導

スタッフ

- 郡 正彦
- 相川 清

スケジュールに沿って講師を会場へ誘導した。スケジュールは変更する可能性に対応し、随時、開場内のスタッフと連動した。

お昼休憩時にポスター発表会場の各 POD のポスターの張り替えを行なった。

講師誘導担当：国立保健医療科学院 総務部総務課 課長補佐 郡 正彦

厚生労働科学研究成果発表シンポジウム

進行：シンポジウム会場

スタッフ

- 統括 パワープレイ 横山 勇
- 進行 D AG 小林 毅
- 映像技術／カメラマンチーム 株式会社 RADIX

進行ディレクター

会場にて講師への設備説明。注意事項アナウンス（時間厳守）タイマー管理を行なう。講演順を把握し、誘導スタッフからの引き渡し後のケア、演台への導線確保。質疑応答時、挙手した方へのマイク運びを行なった。

※ステージレイアウトの変更

映像技術／カメラマンチーム

定点カメラ（国立保健医療科学院所有物）

カメラ（カメラマン操作）

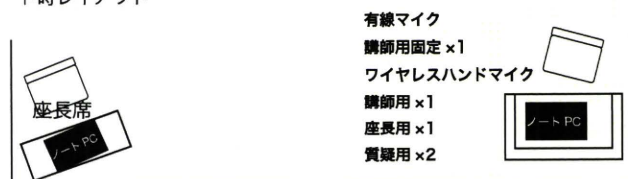
USTREAM 録画はプライベートで保存

上記2点のスイッチングアウトを配信（UST 録画）した。※（Tape メディア等バックアップ録画）

使用可能マイクのメンテナンスを行なった。

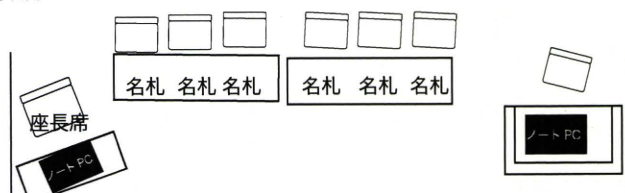
（乾電池は国立保健医療科学院所 総務課準備）

スタート時レイアウト



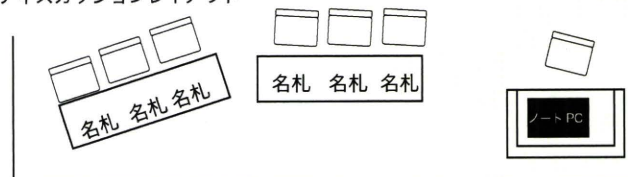
備品全て※国立保健医療科学院所有物

16 時以降レイアウト



備品全て※国立保健医療科学院所有物

パネルディスカッションレイアウト



備品全て※国立保健医療科学院所有物

厚生労働科学研究成果発表シンポジウム

進行：ポスター発表会場

スタッフ

●統括 パワープレイ 兵頭 美緒

●映像技術 2名

●アシスタント 1名

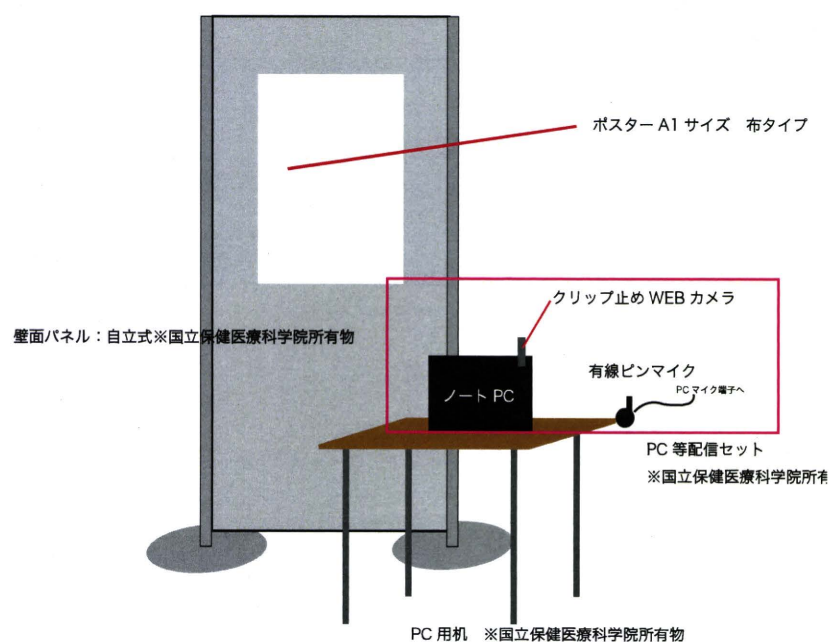
アシスタントはショートプレゼンテーションが終了した講演者を所定の POD に案内し、ポスター発表の注意事項をアナウンスした。

映像技術スタッフは準備ができ次第 UST ライブ配信を始め、録画を開始する旨、講演者に伝えた。
午前の部が終了したら録画を停止し、別ページ記載の保存方法ルールに従い、午前の部を保存した。
午前の部動画の保存が終了したら午後の部の準備を進めた。

午後の部が完了したら録画を停止し、保存した。

USTREAM 録画 はプライベートで保存

基本ポスター発表 環境



厚生労働科学研究成果発表シンポジウム

基本アクション 9:00-16:00

時間～	進行	Staff基本アクション
9:30～	受付開始	開催挨拶/レギュラー発表者1 控え室より誘導 45分 会場 関係者席にスタンバイ
9:55	開会挨拶	
10:00	レギュラー発表：Ⅰ、行政政策	
10:05	「喘息児における新型インフルエンザの緊急調査と対応」	
10:10	岐阜大学大学院医学系研究科 小児病態学 教授	
10:15	近藤 直実	レギュラー発表者2 控え室より誘導 20分 会場 関係者席にスタンバイ
10:20		
10:25		
10:30	レギュラー発表：Ⅱ、厚生科学基盤	
10:35	「医学研究における実験動物」	
10:40	独立行政法人医薬基盤研究所 豊長類医科学研究センター センター長	
10:45	保富 廣宏	ショートプレゼンテーション講演者8名 控え室より誘導 50分 会場 関係者席にスタンバイ 講演順の確認
10:50		
10:55		
11:00	ショートプレゼンテーション	ショートプレゼンテーション講演者終了後、ポスター会場へ誘導 ポスター発表の注意事項をアナウンス 説明終了後、録画開始
11:05	1：次世代育成支援政策における産後育児支援体制の評価に関する研究	
11:10	2：生まれる前の胎児を子宮内で治す新しい手術システム	
11:15	3：筋ジストロフィーに対するエクソン・スキップ治療	
11:20	4：ライフステージに応じた広汎性発達障害者に対する支援	
11:25	5：薬剤耐性HIVの発生機序とその制御方法に関する研究	
11:30	6：細胞内輸送機能の低下とアルツハイマー病との関係	
11:35	7：大型建設機械の不安定性と転倒防止のための安全要件	
11:40	8：経鼻インフルエンザワクチンの臨床応用をめざして	
11:45		8名ポスター発表 ITサポート
11:50		
11:55		
12:00	ポスター発表1	
12:05	ポスター発表2	
12:10	ポスター発表3	
12:15	ポスター発表4	
12:20	ポスター発表5	
12:25	ポスター発表6	
12:30	ポスター発表7	
12:35	ポスター発表8	
12:40		
12:45		
12:50		
12:55		
13:00	受付：再入場の注意事項アナウンス 近隣、レストラン/コンビニ等のアナウンス 入場制限エリアの監視	ポスター発表8名 終了後 控え室に誘導 受付：再入場の注意事項アナウンス ポスター発表 ITチェック ※各POD録画停止～保存 ※各POD次回準備 ポスター張り替え
13:05		
13:10		
13:15		
13:20		
13:25		
13:30		
13:35		
13:40		
13:45		
13:50		
13:55		
14:00	レギュラー発表：Ⅲ、疾病・障害対策	レギュラー発表者3 控え室より誘導 50分 会場 関係者席にスタンバイ
14:05	「子宮頸がん予防のための次世代HPVワクチンの開発」	
14:10	理化学研究所 新興・再感染感染症研究ネットワーク推進センター 業務展開チーム チームリーダー	
14:15	神田 忠仁	レギュラー発表者4 控え室より誘導 20分 会場 関係者席にスタンバイ
14:20		
14:25		
14:30	レギュラー発表：Ⅳ、健康安全保障総合	
14:35	「皮膚・排泄ケア認定看護師による高度創傷管理技術を用いた重症褥瘡発生の防止に関する研究」	
14:40	東京大学大学院 医学系研究科 健康科学・看護学専攻 老年看護学/創傷看護学分野 教授	
14:45	真田 弘美	ショートプレゼンテーション講演者8名 控え室より誘導 50分 会場 関係者席にスタンバイ 講演順の確認
14:50		
14:55		
15:00	ショートプレゼンテーション	ショートプレゼンテーション講演者終了後、ポスター会場へ誘導 ポスター発表の注意事項をアナウンス 説明終了後、録画開始
15:05	9：国民を代表する集団の追跡調査の成果と予防対策への適応:NIPPON DATA80/90	
15:10	10：Duchenne型筋ジストロフィーのエクソスキップ治療	
15:15	11：小児患者に対する医薬品の適正使用に関する研究	
15:20	12：糖尿病患者に対する生活習慣療法を中心とした治療の効果	
15:25	13：新しい聴覚器機：人工聴覚上皮の開発	
15:30	14：クリオピリン関連周期熱症候群に対する診療基盤形成	
15:35	15：関節リウマチの寛解導入療法体系化に関する研究	
15:40	16：飲料水の水質リスク管理に関する統合的研究	
15:45		8名ポスター発表 ITサポート
15:50		
15:55		
16:00	ポスター発表9	
16:05	ポスター発表10	
	ポスター発表11	
	ポスター発表12	
	ポスター発表13	
	ポスター発表14	
	ポスター発表15	
	ポスター発表16	

厚生労働科学研究成果発表シンポジウム

基本アクション 16:00-21:00

15:55									
16:00	ポスター発表9	ポスター発表10	ポスター発表11	ポスター発表12	ポスター発表13	ポスター発表14	ポスター発表15	ポスター発表16	
16:05									
16:10									シンポジウム会場/パネルディスカッションステージレイアウト変更
16:15									
16:20									
16:25									
16:30	休憩/パネル発表終了調整/ステージ転換								ポスター発表8名 終了後 控え室に誘導/レギュラー発表者5控え室より誘導
16:35									35分 会場 関係者席にスタンバイ
16:40									
16:45	レギュラー発表：V. 戦略研究								※各POD録画停止～保存
16:50	「糖尿病予防のための戦略研究—その計画・経過・結果—」								※各POD撤去準備
16:55	国立国際医療研究センター 糖尿病・代謝症候群診療部 部長								
17:00	野田 光彦								パネルディスカッション講演者6名 控え室より誘導
17:05									5分 関係者席にスタンバイ
17:10									
17:15	パネルディスカッション イン트로								
17:20	パネルディスカッション								
17:25	「目的志向型研究としての厚生科学研究と成果発表のあり方」								
17:30									
17:35									
17:40									
17:45									
17:50									
17:55									
18:00									
18:05									
18:10									
18:15									
18:20									
18:25									
18:30									一般受付/バッジ回収
18:35	休憩								一般来場者 誘導
18:40									講演関係者 交流会会場へ誘導
18:45	交流会								
18:50									撤去作業
18:55									
19:00									
19:05									
19:10									
19:15									
19:20									
19:25									
19:30									清掃/備品チェック 終了後解散
19:35									
19:40									
19:45									
19:50									
19:55									
20:00									
20:05									
20:10									
20:15									
20:20									
20:25									
20:30	終了								

厚生労働科学研究成果発表シンポジウム

会場 臨時ネットワーク配線

